

交通バリアフリーニュース

消費者行政インタビュー特別版～第2弾～

車いすテニスプレイヤー



岡部

Yuko Okabe

裕子

2008年9月6日から17日まで開催されたパラリンピック北京大会。

前号そして今号でパラリンピック北京大会で活躍した四国出身アスリートをご紹介します。

今回は車いすテニスの岡部裕子選手。パラリンピック北京大会に出場するために積極的に世界を転戦し、出場条件である世界ランキング24位以内を見事達成。大会本番では強豪ひしめく中、女子ダブルスベスト8に輝き、世界のトップと互角に渡り合いました。

消費者行政インタビュー特別版(第2弾)としてお話を伺いました。

◎テニス歴はどのくらいですか？

20歳を越えてから始めたので12年目くらいです。

◎もともとスポーツには興味があったのですか？

スポーツは好きで小さいときからやりたかったのですが、私が小中学生の頃は障害者がアスリートとしてスポーツをする時代ではありませんでした。何かやりたいなとは思っていましたが、活動できる場所もありませんでしたので、特に何もできずにいました。



チェコ大会2008
左から長久選手、岡部さん、堂森選手
(カナダ) (日本)

◎会社のテニスに対する理解や環境について

試合に出始めた当初は、仕事をしながらアスリートとして活動することについて相談する相手がいなくて、すごく苦労しました。会社では前例がなかったですし、徳島県下にも障害者のスポーツ選手がほとんどいませんでしたので、どうしたらいいかと…。当分は勤めている会社にテニスをしていることを隠していましたが、徐々に大会数も増えていき、去年は通算で4ヶ月間くらい海外に行っていました。そうなりますと、やはり会社の方のご協力がなければやっていけなくなってきました。

私が所属しているグループは年度の初めに1年間の作業計画を立てますのでその時に遠征等と仕事の計画を照らし合わせて、自分がいつ頃ならどういうボリュームの仕事ができるかを調整させてもらっています。

パラリンピックが決まるまでは有給休暇で対応していましたが、3、4ヶ月も遠征するとなると有給休暇だけでは間に合わなくなり、土日に働いて平日に休むという変則的な勤務になっていました。忙しい時期には遠征も仕事もない完全なオフの日が、1日もないという月もあって、体力的にも精神的にも辛い日も多かったです。

でも、パラリンピック出場が決まってからは、50日間の特別休暇をいただきましたので、思う存分テニスに打込むことができました。

トップ選手をめざしていて、これだけフルタイムに仕事をしている人はあまりいないと思います。アジア圏では何名か知っている選手がいますが、海外では、まずそう

いうことはありません。

国内ですと、工作中的の事故で障害を持たれた方は労災がおりますので、それで生活費や遠征費をまかなっている方もいらっしゃるようです。

◎普段の練習について

私の場合、職場での勤務体制は11時から16時までがコアタイムのフレックス制となっています。11時までと16時以降は多少抜けても欠勤などの扱いとなりませんので、うまく利用させてもらっています。仕事では休みをいただくだけでも迷惑をかけていますので、夜は残業をすることもあって思うように練習時間が確保できません。そのため、練習はできるだけ朝のうちにやるようにしています。



Daegu Open2008
左から岡部さん、Hong選手のコーチ、Hong選手
(韓国)

それから、遠征に行くための手続きなどもすべて自分でやらなければならないため、事務的なことをする時間が毎日1、2時間必要となります。帰宅してから、その時間も確保しなくてはなりませんので、本当に時間が足りません。スポンサーもなく、お給料で遠征費用をまかなっている以上、仕事の時間を短くすることもできませんから…。

◎普段の練習は健常者といっしょにやっていると聞きましたが・・・

本当に健常者の方と一緒にプレーができるのか、初めのうちは口で説明してもなかなかわかってもらえず、気をつかわれる方も多いです。そんなときは「とにかく見てください」と言います。「これだけ打ちますし、打てます。少々離れたところに打たれても取りに行きます。」と、実際のプレーを見せて理解してもらっています。

テニスそのものを健常者の方と同じ空間で、同じ時間に楽しめるというのはとても魅力的だと思います。車いすテニス以外のスポーツで障害のあるなしに関係なくいっしょに汗が流せるスポーツは少ないと思いますので、そこは車いすテニスの魅力の一つだと思います。



ピースカップ2008

左から岡部さん、伊藤選手、平沢選手、杉山選手、堂森選手

◎レッスンでは指導してくれる方はいますか？

伸び悩んでいた時期に、指導者の力をお借りしたいと思って、いくつかの民間のテニスクラブに電話したことがあります。設備が整っていないとか、車いすテニスを見たことがないなどの理由で殆ど断られました。今、お世話になっているテニスクラブは車いす用の駐車場やトイレも当初からついていましたし、以前に徳島でダブルスの車いすテニスの大会の開催にご協力いただいたこともあって、すごく理解のあるクラブです。ご指導いただいている今のコーチは車いすテニスにとっても興味を持っていただいている、「どうやって教えていこうか」ということを熱心に研究してくださっています。今の車いすテニス界の状況を考えますと、車いすテニスに興味があるかどうかということは、指導者としてとても重要な要素じゃないかと思います。

と言いますのも、指導者不足はあっちこっちで抱えている問題で、さらに技術を高めたいと思う選手は多く、もっとレベルの高い指導を熱望していますが、現状は指導者のレベルや数がついてきていないと思います。

◎取材やメディアについて

パラリンピックが終わって、いろいろと取材依頼が増えています。仕事もありますし、練習もそろそろ再開しなくてはいけないため、正直、あまり時間はありません。それでも、パラリンピックを終えたばかりの今は車いすテニスのことを知ってもらうには一番いいときだと思っていますし、チャンスだと思っています。今は練習も大事ですが、普及活動も大事なこ



Czech Openの表彰式後 八箴(やおさ)選手と

とじゃないかという思いから、取材依頼をできるだけ引き受けさせてもらっています。

パラリンピック北京大会を機にメディアの対応が変わってきたと感じた部分は、記事がスポーツ面に載るようになったことです。以前は社会面に載ることが多く、日本代表として参加した国別対抗戦の記事でさえも福祉面に載せられたりしていましたから、(徳島新聞のインタビュー記事を見ながら・・・)これだけ大きくスポーツ面に載ることは画期的なことだと思います。

◎将来的に指導者やサポートする立場になったときについて

車いすテニスをもっと認知させていかななくてはならないと考えるようになったのもここ1、2年くらいのことです。それまでは自分がいかにテニスに打ち込めるか、練習の時間を確保できるかということしか考えていませんでしたので、遠い先のことまで考えていませんでした。

指導者として、テニスにかかわっていただけるだけの技術力は今の自分にはありませんが、選手として、スポンサーを探したり、会社との関係をうまく作り上げて、働きながら競技者になる「道」を作っていくということで、後に続く人たちの環境作りのきっかけや、何かに少しでも役に立つことができたらいいなと思っています。

テニスに直接関わらなくなっても、自分の体験談や、車いすスポーツの魅力を、講演とか小学校などを訪問して交流する中で伝えて行くということも一つの大切な手段だと思っています。



Taiwan Open Lions Cupでの一場面

◎パラリンピックに出場して・・・

一番よかったのはたくさんの観客の前でプレーできたことです。あれだけのたくさんの人が集まり、1つのことに対して歓声をあげたり感動する、そういう空間を今まで体感したことがありませんでしたので、そのエネルギーのすごさに感動しました。

それから、家族にも初めて生でプレーしている姿を見せることができたのは、すごくうれしかったです。

また、パラリンピック出場を一つの目標として、ランキングを上げるために海外ツアーを回り、いっしょにがんばってきた各国の選手たちと、パラリンピックの舞台上で顔を合せたときのうれしさは格別でした。

◎思い出の試合

毎回毎回何か感じることもあり、どの大会も印象に残っているのですが、私の場合はいいタイミングで大きな出来事や体験をしてきたと思います。

たとえば、はじめて海外遠征に行ったときは、なんとなく、みんなで旅行がてらに初級者クラスに出場したのですが、どういう訳か今まで一度も勝てなかった同じクラブの選手に勝って優勝することができて、非常に励みになりました。どう見ても彼女の方がテニスは上手だったんですが、技術だけじゃなく、メンタル的なものも含めてテニスなんだということを知るようになりました。

さらに、その大会で上級者クラスに出場していたトップ選手の試合を見て、技術と意識の高さを肌で感じ、すごく刺激にもなりました。

また、テニスをこれからどれだけ真剣に続けていこうか、と考えている時にアテネパラリンピックがあって、非常に仲良くしていた選手が出場したこともすごく影響を受けました。

先程も言いましたが、自分にとって節目となる大事なときに、すごく印象的なことが起きて、それが自分にプラスの影響を与えてきたと思います。

今思いますと、ここまですごくいい流れでこられたと思っています。



US Openでの一場面

でもこれからは、自然の流れにただ乗っていくのではなく、自分で流れを作っていきたいという気持ちに変わってきました。これまで車いすテニスを通じていろいろと体験させてもらいましたので、それを無駄にしないように…。

岡部裕子（おかべゆうこ）

1976年生まれ 徳島県出身

（株）ジャストシステムに勤務しながら、車いすテニス世界トップアスリートとして活躍中。世界ランキングでシングルス最高16位、ダブルス15位。

主な成績

Japan Open2008

ダブルス準優勝

Newzealand Open2007

シングルス優勝

BNP Paribas French Open2006

ダブルス準優勝

Kpm Consult Czech Open2006

ダブルス優勝

Kobe Open2006

シングルス準優勝

SYDNEYINTERNATIONAL2006

ダブルス準優勝

Kanagawa open2005

シングルス準優勝

ダブルス優勝

Japan open2005

ダブルス優勝

Taiwan Lions Cup2005

ダブルス優勝

Australian Open2005

ダブルス優勝

車いすテニスを見てきました！

今回、車いすテニスプレイヤーの岡部さんのご厚意で、実際に練習風景を見学させていただきました。

◎ 第1印象は・・・

テニスそのものの技術もさることながら、車いすの操作（チェアワークと言います）がものすごくスムーズで、意のままに操る姿はすばらしいの一言です。チェアワークが勝敗の鍵を握るのも納得です。

◎ ルールはどのような？

車いすテニスは「ツーバウンドまでに返球」が認められている以外は、一般のテニスとほぼ同じルールで行われます。

また、主要な大会は国際テニス連盟（ITF）の管轄のもとと正式なルールに則って運営されます。

◎ 使用している車いすはどういうものですか？



岡部さんが使用している競技用車いす



普通の車いす

回頭性をよくするために車輪はハの字に取り付けられている

競技用の車いすを見せていただきました。1台50万円近くもするそうです。普通の車いすと比べると車輪の取り付け角度や前後の補助輪など、競技のために特化している部分がよくわかります。

◎ 試合はどこで観戦できますか？

日本では、国内選手権として毎年12月に頃に千葉県柏市でNEC全日本選抜車いすテニス選手権大会のほか、NEC車いすテニスツアーのトーナメント^{※1}として毎年10月に広島県広島市でピースカップなどの競技会が行われています。

※1 国際テニス連盟公認の車いすテニストーナメントの総称



阿南市で初の開催 徳島運輸支局交通アドバイザー会議

日 時：平成20年12月2日（火）
 場 所：徳島県阿南市役所
 今年度のテーマ：「地域の交通課題と今後の交通政策について～これからの地域の足を考える～」
 座 長：近藤光男徳島大学大学院教授
 アドバイザー：阿南地区から5名出席



会議の様子

阿南地区から徳島市内や徳島空港、近畿圏への公共交通機関の利便性向上を求める意見や、離島航路における船舶の大型化、上陸後の交通アクセスの要望など、県南部地域ならではの要望等が多く出されました。

主な意見提言 四国運輸局ホームページへ掲載予定です。

○遠路は鉄道輸送が基幹となるような対策を取れないか。（待たずに乗車できる状況、パークアンドライドの充実、バスと連携した運行等により利便性を高めることが必要では・・・）

列車に待たずに乗車するには、列車本数を増やすことが必要ですが、そのためには駅に行き違い用の線路を新設する必要があり、これには多額の費用を要することから、当社単独で実施するのは困難です。

パークアンドライドについては、現在、徳島県内の板野駅・鳴門駅・羽ノ浦駅・牟岐駅・穴吹駅・阿波池田駅では、「車d eトレインサービス」を、徳島駅では「パークアンドライドサービス」を実施しています。

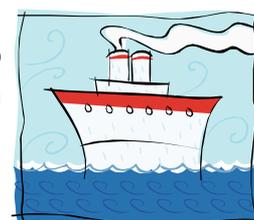
バスとの連携については、全国のJRのダイヤとの関係等もありますが、可能な限り連携し、公共交通機関としての利便性を高めていきたいと考えております。（JR四国）

○鉄道駅前にバス停を設け、鉄道の運行時刻とバスの運行時刻を連携させ運行できないか。

鉄道との接続はダイヤ改正の時期が違う、運行回数等に差があるため直ちに連携させることは難しいですが可能な範囲で検討したいと思います。（徳島バス）

○旅客船は荒天等により欠航することが度々あるが、安全運航上やむを得ないと思いますが、できる限り欠航しないようにしてほしい。

旅客船事業者は、公共交通機関として、輸送の安全を確保することが最も重要であり、運航の可否は、旅客船事業者が事前に運輸局に届け出た「安全管理規程」の運航中止基準に従って事業者自らが決定していますが、運輸局でも、この基準を遵守するよう指導していることをご理解下さい。（徳島運輸支局）



○阿南エリアだけではないが、もっとノンステップバスを普及させてほしい。

平成20年3月31日現在、徳島県内の移動円滑化基準に適合した車両数(ノンステップバス)は58両で、総車両数(375両)の15.5%となっています(ワンステップバス3両を加えると61両で16.3%となります。)。行政の立場からも、ノンステップバス導入に対して補助制度を設けており、積極的に普及をフォローしていきたいと考えています。(四国運輸局)



○阿南市はLEDの発祥地でもあるので、率先して信号とか横断歩道にLEDを使ってもらえたらと思う。最初は経費がたくさんかかると思うが、長い目で見ると経済的ではないか? 「光の街阿南」の宣伝にもなります。

平成19年度末現在、徳島県内では信号機が1507基で、このうち車両灯火は7916灯あります。^{※1} LED化率は約27.6%で、東京に次いで全国2位です。信号灯火のLED化については、老朽化した信号灯火から順次計画的にLED灯火に切り替えており、今年度は徳島県内で約300灯のLED化を計画してします。「光の街阿南」やLEDの宣伝は、既に阿南市役所や商工会などが積極的に実施しているものと思われます。(阿南警察署) ※1 1つの信号機に赤色・黄色・青色や矢印などの灯火があるため、信号機数より多い。

バリアフリー基本構想作成促進セミナー開催



平成21年1月13日(火)、四国運輸局と四国地方整備局は高松サポート合同庁舎アイホールにおいて、「バリアフリー基本構想作成促進セミナー」を共催しました。

会場には香川県内の自治体をはじめ、交通事業者、障害者団体などから76名の参加があり、下のような内容で講演、事例発表がありました。参加者からは、道路工事等を行う時に障害者等に配慮が欲しい、ノンステップバスには車いすが何台積めるのかなどの要望や質問がありました。



1. 講演:「よくわかる!基本構想の作り方
バリアフリー新法と基本 構想作成ガイドブックのポイント」
国土交通省総合政策局安心生活政策課 松隈専門官
2. 事例発表:「高松市におけるバリアフリーの取り組み」
高松市都市整備部都市計画課 石垣課長
3. 事例発表:「JR四国におけるバリアフリーへの取り組みについて」
JR四国経営企画部 寛担当課長

第4回鉄軌道バリアフリー推進会議を開催

日 時：平成20年11月27日(木)
 場 所：サンポートホール高松
 出席事業者：四国旅客鉄道(株)、高松琴平電気鉄道(株)
 伊予鉄道(株)、土佐電気鉄道(株)、
 土佐くろしお鉄道(株)、阿佐海岸鉄道(株)
 四国鉄道協会(順不同)



会議の様子

四国運輸局では、平成16年度から鉄軌道事業者と意見交換を行うことにより、バリアフリーの現状と課題を洗い出し、バリアフリー化の推進につなげて行くことを目的に、「鉄軌道バリアフリー推進会議」を開催しています。

はじめに運輸局から四国における交通バリアフリーの推進状況と課題など四国運輸局の取組みについて説明したあと、鉄軌道事業者から取り組み状況について報告がありました。

ハード面では、経営状況が厳しい中のバリアフリー化の進め方について、補助金制度の充実が必要であるとの要望が出されました。

ソフト面では、事業者が従業員にサービス介助士の資格を取得させ、さらなる接遇向上を推進するなどの報告がありました。

今回の会議では、平成22年までに1日の利用者数が5,000人以上の旅客施設についてバリアフリー化を完了させることを確認しました。

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政課まで、FAXまたはメールでお寄せ下さい。



〒760-0064 香川県高松市朝日新町1-30

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp



国土交通省

このニュースは交通バリアフリー関係の話題を中心にして、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。

四国運輸局ホームページもご覧ください

<http://www.skt.mlit.go.jp/>